SPECIAL ISSUE

特集

私たちはなぜ学ぶのか？

「高校生未来プロジェクト」から考える生徒の学びの意欲

主体的に学び続ける姿勢を持ち、これからの社会をたくましく生き抜いていく生徒を育成するためには、何が必要か。今号では、「学びの意欲研究」としてベネッセ教育研究開発センターが実施した、「ポスト3・11　高校生未来プロジェクト」の実践を基に、高校生が主体的に学びに向かうための手立てを考える。

高校生の「学び」への思い

「正直、今やっている勉強は社会で役立てるためのものではなく、大学受験のためだと思ってしまう。今やっていることが間接的に『将来の自分』を創る上で役立ってくれたらよいなと思うが、意味はあまり分からない」

（長崎県／公立／女子／2年）

「高校の勉強は『意味がある、ない』の問題ではないと思う。意味を見いだせなくても、大学進学のためには必要不可欠とされるのが現状だ。『何の役に立つのか』と思うことはあるが、時間の無駄なので深く考えないことにしている」

（和歌山県／私立／男子／1年）

「将来、自分がやりたいことをするために必要なのだと自分に言い聞かせているが、全く実感できない。理由は、学んだことの使い方が分からないことと、使う機会が少ないことだと思う。勉強にどんな意味があるのか、私には分からない」

（京都府／公立／女子／1年）

＊「高校生未来プロジェクト」参加高校生の、プロジェクト参加前の声より。学年は参加当時のもの。

本号のテーマ

高校生が主体的に学びに向かうためには？

「高校生未来プロジェクト」の仮説と仮説検証の枠組み

東日本大震災後、高校生の社会貢献意識の高まりが見られた。高校・大学での「学び」が、社会への貢献に役立つことを実感できれば、高校生の学ぶ意欲は高まるのではないか？

高校生が社会と「学び」のつながりを実感できる場として、ワークショップを実施すると共に、参加者の学びに対する意欲の変容の追跡調査をベネッセ教育研究開発センターで企画。

ポスト 3.11　高校生未来プロジェクト「『学び』がボクらを、社会を変える」

「高校生未来プロジェクト」から見えたこと

▶高校生の姿から考える P.8〜15、とじ込み

「社会の問題解決のためには、複数の分野の知識を基に新しい知識をつくることが必要だと分かった。入試科目以外の教科を勉強しなかったことを後悔した」

岩手県・高校3年生（参加当時）小池悠菜

「熱意のある参加者と素直に語り合ううちに、変わりたい、勉強したいと思った。以前の自分と同じようなクラスメートに、今度は自分が何かをしたい」

栃木県・高校1年生（参加当時）山野上一輝

「皆が自分の目を見て、真剣に話を聴いてくれたことがとてもうれしかった。だから私も、他の人の話、授業での先生の話をちゃんと聴きたい」

京都府・高校1年生（参加当時）八木杏奈

学校での指導を考える

▶座談会 P.16〜19

「『主体的に学ぶ生徒を育てる』とは、生徒の思いのままにさせることではない。主体的な学びを成立させる場面を設定することが教師の仕事」

オックスフォード大教授　苅谷剛彦

「教師が本音で社会に対する考えを語る。そして、日常のかかわりの中で生徒の自己肯定感を高め、他者、社会へと意識の広がりをつくる」

公立高校教師　竹歳真一（たけとし）

「自分をさらけ出し語り合うこと、相手の熱意に触れることで大きく変容する生徒。教師が、彼らの『変わりたい』という意欲を引き出すことがもっと必要」

公立高校教師　前田幸男（まえた）